

令和3年度 第1回苫小牧市子ども・子育て審議会（書面会議） 委員意見

- 議事（1）第2期子ども・子育て支援事業計画における令和2年度確保方策の実施状況について
 （2）第2期子ども・子育て支援事業計画における令和2年度施策の実施状況について

機関名：北洋大学

氏名：永石 啓高

意見

昨年度から第2期の子ども・子育て支援事業の総合的な関連施策が実施されているわけだが、この1年間を通じて資料3に網羅された施策の内容に関する検討・分析（一部見直し）等がなされているのだろうか。

資料3の表をみると、左から「基本目標」、「区分」、「施設名」、「担当課」、「内容」、「評価指標」、「現状値（平成30年度）」、「目標値（R6年度）」、「R2年度取組状況」、「評価」、「R3年度実施予定」と並んでいるが、例えばNo. 1の施策「訪問などの個別支援」では、「支援内容」は「妊娠から乳用育児」の継続的支援、「育児」や「子供の発達」不安を抱く母親に保健士が訪問や電話で相談に乗るとされている。「評価指標」は「支援体制」として何件の相談に応じたかで評価結果「A」とされている。平成30年度を上回る取組状況で「A評価」なのだが、母親の悩み、直面している/抱えている問題等、現場の保健士は細かに担当妊婦や幼児の状態を把握しているかと推察されるが、支援件数のみならず、相談の内容を精査して、苫小牧市の親子（妊産婦、母親、幼児）が抱える問題点を抽出することは行われているのだろうか。確認したいところである。

⇒数値で目標を設定している施策につきましても、各課では個々の施策内容について内容を精査し、問題点への対策を講じることで令和6年度の目標達成に向けて取り組んでおります。

支援は行政側のサービスとして実施されているわけだが、「基本目標」は「親子の心と体の健やかな成長と健康増進」にあるわけであるから、支援に+「ケア」が必要ではないだろうか（勿論実施されていると思うが、特に「心」の問題へのケア対応には、抱えている問題の検討・分析が不可欠であろうと推察される）。

個別案件だけでなく、苫小牧市という地域に特徴的、あるいは共通の課題が見つければ、市としての重点施策を策定できるかもしれない。例えば若年妊娠・出産、母子家庭等、そしてそこでの育児の悩み、育児・養育環境や生活環境に関する悩みが洗い出すことができれば、生み育てられる養育環境の整備として、生活支援の面では、低廉ではあるが良好な居住住宅の提供など、市が保有する生活の利便性をも兼ね備えた公営住宅を提供することで、子育ての障害を取り除くような施策も考えられよう。出来るだけ子どもの成長過程における養育格差を生まないような施策を立案していく事も重要になって来るように思われる。子供の貧困、その固定化（特に教育格差や、子どもの心の安定に支障をもたらす養育面での家庭環境格差）は何としても防がなければならない。

そのような意味からすると、「B評価」（概ね順調）は、健康診断や歯科検診等の経済的支援活動を除けば、単に支援サービスの件数だけではなく、「A評価」ではないだけに、件数が伸び悩んだ原因を含めて、実施後の分析とフォローが必要なように思われる。

ここに指摘した点は、154 の施策全体についても同じように感じられるものである。評価方針を見直し（客観的評価基準値[=件数]を別のものに置き換えるという意味ではない。それは見える指標として維持しつつも、施策の内容にも踏み込んだ評価データを収集し、施策の効能的評価をも取り入れるという意味である。）、施策改善（基本目標や区分、担当課の配置の検討をも含め、施策の修正・改善、統廃合・追加や新規策定）を漸次検討し、第3期の子ども・子育て支援事業の総合関連施策の策定に活かしていく必要があるように思われる。そうした効能に基づく施策の改善策が効果をもたらせば、逆に相談件数の減少という喜ばしい成果も期待できるかもしれない（問題への「対応」ではなく、問題の「解消」を目指すのが望ましい対応のあり方であろう）。

人口減少社会の中、就労人口の減少が問題視される中において、新たな労働力として女性労働力に注目が集まり、ハード的な面での行政のサービスばかりが吐出して指摘されるきらいがあるが（「待機児童ゼロ」。国会では「保育園落ちた。日本死ね！」が審議で取り上げられたこともあった）、本当に必要なのは家庭（親の、特に母親）の養育・教育環境を如何に確保して、持続可能な社会を次の世代へと引き継ぐかということであると思われる。

その為には、子どもの（親も含めて）「精神的・身体的な安定的成長」が不可欠であり、その子どもたちが基礎的な「感情」や「人格（道徳や倫理観）」を形成・獲得する、まさに生涯教育において、最も原初的かつ重要な現場である家庭の「健全」で「安定的」な環境の確保が蔑ろにされてはならないものと考えられる。

家庭は次世代を担う子どもたちの「心のゆりかご」たるべきものと位置づけ、親としての責任を基底としつつ、社会（行政）がその養育および教育をそっと、親身に寄り添いながら支えていくべきである（子を持つ親は「カッコウ」であってはならず、子の養育を通して自身も大人として成長していかなければならない）。子ども・子育て支援の総合施策は、その意味で、常に子ども（ならびに親）の「健全育成」、特に「精神の成長」に資するべきサービスを提供すべく、常に検討・修正を試みながら再編していく必要があると考えられる。

第2期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画に掲げられている基本理念「子どもが、親が、地域が育つ、明るい子ども未来づくり・苫小牧」をもう一度しっかりと確認して、転換期に差し掛かった（暴走した）資本主義社会を、最近特に注目され、世界的にも提唱されるようになった「SDGs」に即した形へと修正させ、理念にもあるように「明るい社会」を次世代に繋いでいくためにも、幼少期から生涯にわたって、「幸福感」と「生きる喜び」を実感できる「持続可能な福祉社会」を、「あたたかい家庭」を基底としつつ、市民の参加・協力を得ながら推しはかっていく必要があるように思われる。

子ども・子育て支援は、その大きなプロジェクトの入り口に位置し、「未来づくり」には極めて重要な役割を担うものと解される。故に支援の「内容」に踏み込んで、施策の分析・検討・修正・改善・創造を常に繰り返し、PDCA（Plan[計画]・Do[実行]・Check[評価]・Action[改善]）サイクルを好循環させることによって、サービスの向上と施策の成果達成度を追求していく必要があると考えられるのである。

そうした意味で、夫々の施策実施状況の中で抽出された問題点を整理分析した資料（個人情報保護との兼ね合いもあるが）を作成し、それを基に施策の内容の検討を実施することが望まれ

ていると言えよう。

この点については、審議会でも何回かご指摘させていただいたが、今回の配布資料にもそうした資料が含まれていなかったもので、再度ご検討いただくよう進言致したい。

個人情報保護の関係で公開できないというのであれば別の話になるが、しかし例えそうであったとしても、施策検討の資料として内部的資料を作成し、施策内容の検討に資していただき、審議会審議の際、新規施策の提示、あるいは施策の修正や変更提示の理由としてご提示いただければ、審議を通じて、子ども・子育て支援事業に対する市民の理解が賛否両論を含めて深まり、広報を通じて審議会討議の内容を市民に周知することで、市民からの多様な意見の集約も可能となると想定しうる（勿論、市民が子ども・子育て支援事業に関心・熱を持帯びるように仕向けるには[意識変革を促すには]水面下でのフル回転の水かきが求められよう）。

そこに生まれる市民の意識の変化・高まりは、行政に対するサービスの要望ばかりではなく、ボランティア活動を含めた子ども・子育て支援事業への市民参加の道を開くことにもつながって行く可能性も秘めているように思われる。

さらにこの考えを先に膨らませ、子ども・子育て支援事業に始まった市民の「明るい子ども未来づくり」の輪が若者から高齢者まで拡大していくと仮定すれば（そうしなければならない）、人口減少社会の真ただ中（これから本格的に加速する中）にあって、市民が共有する危機意識から、その輪の広がり「地域創生」へとつなげることも夢ではないように思われる。人口減少は避けられないとしても「明るく」、「豊かで」、「暮し易い」まち創りには、苫小牧市に居住する市民たちが（若者から高齢者達までもが世代間等で）対立・分裂するのではなく、市民たちがその多様性を活かしつつ、共に自らの生活（人生）をエンjoyすべく、協同して参加する。

また相互扶助の精神に基づいて居住地域において住民同士がつながりを深め合い、「家庭（家族）」、「町内会」、「地区」そして「市」と、それぞれのコミュニティが有機的連携関係を構築し、それぞれの地域住民が、自ら「明るい未来」を背負う者として、主体的に「人づくり」、「まち創り」、「コミュニティ創り」に立ち上がり、アイデアを出し、場合によっては行政の要として市の協力を仰ぎながら、積極的に「まち創り」に参加し、関わることで、「地域」に、「街」に、「活力」を生んでいく。「コミュニケーション」が充足し、市民の誰もが「わがまち」を誇りに思う意識が形成されたなら、次世代への「明るい未来」を継承させていく事の可能性も高まっていくだろう。少なくとも「まち創り人材」が枯渇することはないものと推察される。

市民や「NPO」、地元経済界をも巻き込んだそんなPDC Aサイクルの好循環から創造されてくる市民主体の「持続可能な福祉社会」へ向けての社会構築作業は、加速する人口減少の本格化を前に、一歩でも二歩でも、歩を「先」に進めることが肝要だと考えられる。

そうした意味でも、子ども・子育て支援事業は、この壮大なプロジェクトの、「人づくり」の「要」とも言える重要施策である為、内容の吟味に関しては十分に注意を傾注し、その施策の効果を最大限発揮できるよう、実施されている施策の問題点を洗い出し、常時的施策の検討・修正・改善の思考を維持しつつ、第3期施策の策定へ向けてのプランニング作業を推し進めていってもらいたいと願っている。

機関名：北海道私立幼稚園協会苫小牧・日高支部

氏名：青山 邦子

意見

(1)

いくつかの事業について新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を下回る結果であったことについては、今回の状況の中で仕方がなかったと思います。

妊娠、出産、乳児家庭の訪問などの評価Aについて、事業がコロナ禍にあっても順調に進められたことについてよかったですと思います。

養育支援訪問事業については、事業の周知を行うことで目標値の2倍以上の支援を行うことができたということですが、令和2年度の実績263に対して、令和3年度の目標値の123は少ないということはないのでしょうか。

⇒本事業は、子育てについて特に支援が必要な家庭に対し、週1～3回の家庭訪問を行い、養育に関する援助・助言を行うものです。利用世帯数は増加していますが、必要支援回数と同世帯であっても状況により変動するため、目標値は123人としています。

(2)

154の多くの施策を通して、妊娠から子育て、思春期、一人ひとりの特性に配慮した支援など、各事業が市の基本理念である「子どもが、親が、地域が育つ明るい子ども未来づくり・苫小牧」の実現に向けて努力され、多くの評価がA順調、B概ね順調であったことについて、各事業の取り組みを評価いたします。

施策一覧の中の基本目標「6一人ひとりの子どもの特性に配慮したきめ細かな支援をより充実します」の「5障がい児の教育・保育の充実」では、幼児教育の特別支援について、常に専門性が求められる中で、迷いながら試行錯誤しながら行っている中で、難しい場面が多くあり、より相談体制や園への指導や支援をお願いしたいと思います。

機関名：苫小牧市法人保育園協議会

氏名：遠藤 明代

意見

令和2年度の確保方策、施策の実施状況について資料1、資料2を拝見しましたが、新型コロナウイルス感染症のため実施目標数に達していない状況は理解できると思います。

資料3の基本目標2「子どもの教育・保育環境をより充実します」の区分1、No22「小規模保育事業所等の整備」の部分ですが、一昨年頃より各園で0歳児入所の数が減少したり、0・1歳児数が募集しても入所してくる数が減ってしまったとの情報が入ってきています。この件は以前の審議会でも話をさせていただきましたが、小規模（0～2歳児）の受ける施設をそのまま増加させていくばかりでなく、認定こども園での0～2歳枠を増やしていく策も考えていかなければならないのではと懸念しています。

機関名：苫小牧市子ども会育成連絡協議会

氏名：佐藤 守

意見

①基本目標2 区分3 No24 少人数指導や習熟度別学習の推進

苫小牧市内の小中学校全ての学校で実施する計画は、ありますか？

⇒少人数指導や習熟度別学習の推進については、北海道教育委員会において、指導方法工夫改善加配などによる教職員定数の加配措置を実施しており、本市においては希望する一部の小中学校で加配措置され、個に応じたきめ細かな指導が行われています。
なお、小学校について令和3年度から第2学年から第6学年まで段階的に35人学級にすることが決まっています。

【参考（R3）】

- ・指導方法工夫改善加配（小学校13校、中学校10校）
- ・退職人材活用事業（小学校6校、中学校1校）
- ・少人数実践研究事業（小学校6校、中学校5校）

②基本目標2 区分6 NO30 教育施設整備

苫小牧市内の学校の耐震化率100%になるのは、何年度ですか？

⇒令和3年度です。

③基本目標2 区分7 NO31 地域に開かれた学校づくりの推進

学校評議員制度に替わる制度の導入を検討とあるが、どのようなことを考えているか。

⇒各施策に共通して、要件を満たしているかどうかを審査する必要があるため、申請に基づき、母子・父子・祖父母などどのような構成の家庭であるかについても把握をしています。ただし、管理及び分類の方法は、各施策によって異なるため、集計が困難な場合があります。

④基本目標2 区分10 NO38～41 青少年キャンプ場の利用促進 ほか

コロナ禍で中止になる場合が多いが、感染予防対策を取ったコロナ禍でもできる事業を考えているのであれば教えてほしい。

⇒今後の感染状況にもよりますが、令和3年7月の段階では、ボランティアスクール、ウィンターキャンプ、こども議会を開催予定であります。また、苫子連主催の事業においても同様に、感染対策を講じながら開催予定です。

⑤基本目標5 区分3 NO109 放課後子ども総合プラン

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型実施とはどのような内容か教えてください。

⇒放課後における子どもの居場所づくりとして、学校の余裕教室を活用しながら、児童クラブの児童に加えて地域の児童と一緒に交流できる場を提供し、スポーツ吹矢・プログラミング体験・英語教室・異世代交流などを行っております。

| |
|---|
| 機関名：苫小牧市PTA連合会 |
| 氏名：鈴木 亜沙美 |
| 意見 この委員になるまで、細かい事業計画の施策内容があることを知らなかったの、苫小牧市民にも可能な限り細かく発信してほしいです。 せつかく細かく統計が取れているなら市民にも満足なのかアンケートをとって、今後の苫小牧発展のため、是非生かしてほしいです。 |

| |
|--------------------------------------|
| 機関名：苫小牧市小学校長会 |
| 氏名：平石 崇広 |
| 意見 どの方策、施策の実施状況につきましても適切であると考えます。 |

| |
|--|
| 機関名：苫小牧市医師会 |
| 氏名：小原 敏生 |
| 意見 (1) COVID-19 流行下で特殊な状況での数値の評価が流動的で難しいと思います。こういう状況の時こそ資料に残す意味で、「子ども・子育て相談ナビ」の生の声を整理して文章化して付記すべきと思います。 (2) 各施策の実施状況はわかるのですが、各施策の実施のために整備したシステムなどあれば評価に付記すべきと思います。医療の立場で眺めると、縦割りシステムでは施策の実現が難しいところに来ていると思います。今年度は苫小牧市こども相談センターが開設され児童虐待防止の対応がより進みシステム化されたと思いますので評価に効果も含めて付記して残しておくべきと思います。 |

| |
|---|
| 機関名：苫小牧市民生委員児童委員協議会 |
| 氏名：山岸 陽子 |
| 意見 新型コロナウイルス感染症の影響により未実施の所もあり、これで問題はありません。 |

| |
|--|
| 機関名：苫小牧市女性団体連絡協議会 |
| 氏 名：北岸 由利子 |
| <p>意 見</p> <p>(1) 認定区分ごとの令和2年度の実績等では、3号は今後に向けての課題だと思います。特に0歳児は働く方も増加傾向にあります。令和3年度以降、受入枠の確保に向けて取り組みを加速してほしい。</p> <p>(2) 概ね順調に推移していると評価します。</p> <p>N○80～82、84～86について、ひとり親、母子家庭等とありますが、ひとり親の対象として母子、父子、祖父母も実態としてどの程度把握されているのか教えていただければと思います。</p> <p>⇒各施策に共通して、要件を満たしているかどうかを審査する必要があるため、申請に基づき、母子・父子・祖父母などどのような構成の家庭であるかについても把握をしております。ただし、管理及び分類の方法は、各施策によって異なるため、集計が困難な場合があります。</p> |

| |
|--|
| 機関名：苫小牧市ファミリー・サポート・センター |
| 氏 名：岡田 直子 |
| <p>意 見</p> <p>保育園や認定こども園などへの低年齢の入所待ちの待機児童が多いとのことで、コロナの影響もあり大変な面もあると思いますが、計画通り認定こども園や保育所、小規模保育事業所の数を増やして、少しでも多くの方が入所できることを願います。</p> |

| |
|--|
| 機関名：苫小牧商工会議所 |
| 氏 名：末松 仁 |
| <p>意 見</p> <p>新型コロナの影響もあって、目標値に達していないものもあるとしても、状況によって変化するものなので、評価がBであっても、限られた資源の中で十分に施策は生きていると思う。</p> <p>同時に訪問事業の需要が多かったし、実績としてカウントされていることは、きめ細やかな対応がされていると感じている。</p> <p>市民個々の状況が多様な中で、経済的にも厳しい子育て世代が多いこともあって、0歳児、1・2歳児の保育需要はさらに増加するように思われる中、よりフレキシブルな対応が必要になるのではないかと。</p> |

機関名：連合北海道苫小牧地区連合

氏名：山上 晃

意見

(1)

- ①新型コロナウイルスの感染拡大が始まって、過去に経験のない感染防止対策をとる中でも乳児家庭全戸訪問事業ではすべての対象家庭を訪問するなど基軸となる各種施策を遂行されたことに敬意を表します。
- ②自己評価にもあるように「病児保育事業」で新型コロナウイルス感染対策の影響で病児対応の受け入れを行わなかったことは賢明な判断であると思います。
- ③今後も感染対策を実施され担当職員のみなさんの健康管理を第一に業務にあたっていただきたくお願いいたします。

(2)

- ①基本目標2・4・5で計画されていた「交流事業」「出前講座」などは新型コロナウイルス感染拡大防止策を展開する際に最も苦慮された取り組みであり、取り組みの展開の際には判断などにご苦勞されたものと思います。今後コロナが一定程度落ち着いてからウィズコロナの中での施策展開の際の注意点などを検証して活かしていただきたいと思います。
- ②1-3-18保育所等での「食への関心の育成」については、前年度と比較しても実施園数が増えており評価いたします。「食」は子ども・子育て事業の原点であり、幼児から小・中学校へ取り組みを継続することにより子供たちの健康な心と体を育む重要な施策であると思います。

機関名：苫小牧青年会議所

氏名：佐々木 隆幸

意見

特にありません。

機関名：公募委員

氏名：藤崎 詠子

意見

(1)・(2) 共に特にありません。

市のLINEのリニューアルにより、とまっこLINEの普及と内容の充実に期待しております。